

子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2023年5月号)

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今年も「東北復興グリーンウェイブ」の植樹活動が行われました。
今月号では、岩手県大槌町と宮古市における活動をご紹介します。
写真は、全国の参加園さんから届けられた東北のどんぐりの苗木です。

(目次)

1. 「東北復興グリーンウェイブ2023」大槌町植樹会レポート
2. 「東北復興グリーンウェイブ2023」宮古市植樹会レポート
3. 「園庭緑化運動」2023年度オンライン講座のご案内
4. リレーエッセイ (2023年5月号)

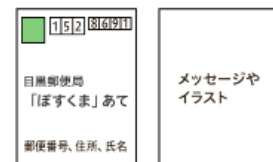
日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち

© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは日本郵便のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局 「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. 「東北復興グリーンウェイブ2023」大槌町植樹会レポート

2023年5月22日の「生物多様性の日」に、今年も岩手県大槌町で「東北復興グリーンウェイブ」の植樹会が開催されました。「つつみこども園」と「吉里吉里保育園」の子どもたちと保護者、そして多くの応援団、合わせて約50名が参加し、全国から届けられた東北のどんぐりの苗木、約100本を植えました。今年も、たくさんの「どんぐりの絆」が結ばれました。活動の詳細は、ホームページをご覧ください。



大槌町での植樹会は、「つつみこども園」芳賀園長先生の司会で始まりました。



「つつみこども園」芳賀潤さんの主催者ごあいさつ



大槌町長 平野公三様 ごあいさつ



日本郵政 広報部 高松 寛さんから応援メッセージをいただきました。



「どんぐり〜ず」も応援にかけつけてくれ、みんなで「♪どんぐりえがお」ダンスを踊りました。



町長さんたちに手伝ってもらって東北のどんぐりの苗木を植えました。



「2023日本ミスみどりの大使」上村さや香さんも参加してくれました。



最後に、みんなで恒例の記念撮影です。

2. 「東北復興グリーンウェイブ2023」宮古市植樹会レポート

2023年5月22日(月)の午後、大槌町での植樹会に続いて、宮古市でも「東北復興グリーンウェイブ」の活動が行われました。今年の宮古市での活動は、昨年、「うみどり公園」に植えたどんぐりの苗木4本の成長を見守る活動となりました。宮古市の「あかまえこども園」と山田町の「山田町第一保育所」「とよまねこども園」「織笠保育園」の園児、約60名が参加し、「どんぐり〜ず」と一緒に、『大きくなあれ!』と声掛けしながら水やりをしました。



3. 「園庭緑化運動」2023年度オンライン講座のご案内

「園庭緑化運動」では、2023年も下記の内容で、より良き園庭を考える3つのオンライン講座を実施します。今年も、とても有益な講座となりました。まずは、6月講座から参加者を募集します。ホームページ、ないしは右のQRコードからお申し込み下さい。



【6月講座】

- * 6月27日(火)14:00~16:00
- * 田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学専攻 准教授
国際校庭園庭連合日本支部 代表 仙田 考(せんだ こう) 先生
- * テーマ: なぜいま園庭緑化なのか
～園庭緑化運動第1期モデル園の歩みと自園での活動に向けて～



【8月講座】

- * 8月22日(火)14:00~16:00
- * 認定こども園さざなみの森 理事長 難波 元實(なんば もとみ) 先生
- * テーマ: 未定



【10月講座】

- * 10月24日(火)14:00~16:00
- * むぎの穂保育園 園長 出原 大(いずはら だい) 先生
- * テーマ: 未定



4. リレーエッセイ (2023年5月号)

岩井 光子さんのリレーエッセイ「SDGs入門」の今月号は、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」のターゲットである減災がテーマです。今月号も興味深い内容です。

【SDGs入門】

被災地の頼れるメディア「災害ラジオ」～臨時災害放送局制度とは？～

ライター 岩井 光子



子森ネットで一昨年から保育施設に特化した防災を考える「保育防災アクションマイスター認定講座」が始まっています。私も1期生の皆さんの取り組みをまとめた小冊子『アクションにつなげる保育防災』で編集と執筆のお手伝いをさせていただきました。参加園の先生方の意識の高さと鋭い視点に私自身も良い刺激を受けた1年となりました。

一連の講座の中で「情報収集や地域連携」といったキーワードが幾度となく出てきましたが、こうした話を聞いていて思い出したのがコミュニティ放送のことです。

日本で地域密着の小さなFMラジオがたくさん誕生するようになったきっかけは、1995年の阪神・淡路大震災だといわれています。災害後に情報が錯綜したことを教訓に被災地の臨時ラジオ局開設をサポートする制度ができました。防災無線がダメージを受けたり、広報車が巡回できなくなった時、インフラ復旧の進捗状況や避難所の様子、行政手続きなどの情報を整理して知らせてくれる災害ラジオは、被災者の心を落ち着かせる重要な情報伝達手段となります。

ラジオの開局と聞くと大がかりなイメージを抱きますが、臨時災害放送局制度は口頭で免許申請でき、手数料や電波使用は免除。必要な放送機材は無料で借りられます。あまり知られていませんが、災害の多い日本独自の優れた制度です。

2011年に起きた東日本大震災でもこの制度でのべ35の臨時放送局が開設されたそうです。2016年の熊本地震でも4つの放送局が臨時稼働しました。

実は今回この話題を取り上げたのは、知人の瀬戸義章さんが1月に上梓した『雑草ラジオ』で、こうした臨時災害放送局の立ち上げに奮闘した人たちのエピソードをたくさん読んだことも影響しています。瀬戸さんはライターですが、ICTにも詳しく、スマホと送信機だけで開局できるコンパクトラジオを考案。実際にこのアイデアをインドネシアで活用してもらうために技術支援を行った経緯なども書かれていて、大変興味深かったです。



SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に減災に触れたターゲットがあります。ラジオは災害時に最も頼れるメディアの一つです。特定NPO法人BHNテレコム支援協議会が、臨時災害放送局の開局支援や自治体など団体向けに災害ラジオを体験する機会も提供しているそうですので、関心のある方はチェックしてみてください。



BHNテレコム支援協議会

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。